

私たちには、ゆずれない一線があります。

WTO農業交渉に、緊急提言。

「自由貿易」の名のもと、日本の、そして世界の食の未来が
性急に決定されてしまうことを、私たちは見過ごすことができません。

WTO(世界貿易機関)は、貿易ルールの見直しや管理を行う国際機関。その中で、農業分野に関する貿易ルールについて行われる話し合いが「WTO農業交渉」です。2001年にスタートしたWTO交渉「ドーハ開発ラウンド」は、世界の飢餓や貧困を無くすことを目指しています。しかし実際は、当初の目的とは異なり、輸出される工業製品とのバランスから、現在も貿易の自由化のみが活発に議論され、追求されています。

人間の生命に欠くことのできない「食料」の貿易ルール。
それは、「工業製品」の貿易ルールとは異なっているのが当然です。

「食」は人間の生命に欠かせない大切なものであり、そのルールは、経済合理性の視点だけではなく、各国の人々の暮らしに根ざした観点から確立しなければならないはず。例えば、食料輸出国で大干ばつやハリケーンなどが起きると、それらの国は輸出よりも自国への供給を優先するでしょう。また、現在も加速している世界人口の増加により、食料の争奪が地球規模で深刻化することも懸念されています。性急な貿易自由化は、明日の私たちの食卓に大きな影響を与える可能性をはらんでいるのです。



私たちJA長野県グループは、誰もが安心して暮らしていけるよう、
「食べものが安定的に供給される」ことを前提にした
新しい貿易ルールづくりを、これからも求めていきます。

JA長野県農政対策会議

 JA長野県グループ

JA長野中央会